

## 第2回倉敷市総合計画審議会 第2分科会議事録（要旨）

会議名称		第2回 倉敷市総合計画審議会 第2分科会（文化・産業）
開催日時		令和2年1月24日(金) 15:00～16:55
開催場所		倉敷市役所5階502会議室
出席者 ※敬称略	審議会 委員	井上 稔裕, 大賀 環子, 大島 康弘, 尾崎 聡, 後藤田 恵子, 永井 圭子, 中島 光浩
	市職員	企画財政部参事, 総合計画策定研究班員, 事務局
関係者	関係者	委託事業者
傍聴者	傍聴者	なし
会議次第		1 開会 2 現況説明 3 意見交換 4 その他 5 閉会

1. 開会

2. 現況説明

(事務局が資料を説明)

3. 意見交換

分科会長	<p>事務局から説明された数字やグラフ等の記述内容について意見はないか。</p> <p>現状と課題 15 ページの市立短大の問題について、市民が入りにくい市立大学に随分前からなってしまうと思う。私が若い頃は手軽な進学先だったが、今は、公立大学で学費が安いので、東北地方から九州まで日本全国から入学している。大学経営上は理想的だが、倉敷市民の若い子にとっては、入りにくいということ。服飾美術学科 50 人、保育学科 50 人と最小規模の募集定員だが、市内出身枠はあるのか。おそらく市立短大の募集要覧・要項に書いていると思う。</p>
委員	<p>市立短期大学があることさえ知らない方も、結構市内にいるのではないか。</p>
分科会長	<p>外国人観光客について。日本遺産に関わっているが、尾道は何年間で外国人観光客が 15 倍になっていると聞き、すごい数字だと思っている。倉敷市は、日本遺産に認定されて、例えば、外国人観光客はどのくらい増えたのか知りたい。</p>
市	<p>今、手元に資料がないが、宿泊は約 3 倍になっているはずで、2 万人程度だったのが、今 6 万人台と聞いている。ちょっと正確な数字を確認する。</p>
分科会長	<p>日本遺産の効果はあると思うが、尾道ほどではないのでは。</p>
市	<p>尾道はしまなみ海道の自転車を使ったプランが非常に人気で、海外の観光客の方を呼び込んでいるというのは聞いている。</p>
分科会長	<p>日本遺産といっても、地元住民には身近すぎて、何を案内していいかわからないかも。ジープの製作工程のツアーのような、地元では当たり前と思うものが、意外と受け入れられるというか面白いみたいだ。</p>
委員	<p>2003 年に小学生が勉強になるミュージアムを作ったら、意外に一般の人にも来るようになり、2006 年から産業観光を始めて、ジーンズバスを走らせ、来てくれる人が増えた。最近では、アジア圏から岡山への直行便を利用した観光客も増えている。ジーンズ作り体験等も当初こそ少なかったが、体験ブームもあり、結構来てくれている。今後は、瀬戸大橋のライトアップ等で夜間観光をと考えている。</p>
委員	<p>しまなみは自転車で、明石は鳴門で結構人が来ている。瀬戸大橋だけ人があまり来なくなったと思う。</p>
委員	<p>まだ隠れたいいものいろいろあるが、一番の課題は、情報発信がうまくできてないことではないかと思っている。それができれば、まだまだ来てくれるチャンスはあるのにと。情報発信は若い子のほうが長</p>

	けていると思う。
分科会長	情報発信の一つである SNS は、理解はできてないが、僕もしている。
委員	2006 年から市もいろいろしてくれ、タイや香港などのブロガーを連れてきてくれた。そうした人たちの発信がポディブローのように効いているのは確かだと思う。海外の人が増えたということは、海外はそうした情報発信が上手なのだろう。
分科会長	尾道で観光業の方が、昔は日本旅行初心者として東京、大阪に来て、中級者になったら少しずつ日本中を巡っていたが、今はいきなり（地方に）来ると話していた。初心者がいきなり児島に来るというか、そのあたりは変わってきているとの話だが、そうかなと思われたことはあるか。
市	外国人観光客の宿泊者数について確認した。倉敷観光コンベンションビューローの調べでは、平成 26 年は 25,219 人だったのが、翌年の平成 27 年には 46,948 人になり、平成 28 年が 52,437 人、平成 29 年は 66,072 人、直近の平成 30 年は 77,073 人と、着実に増えている。平成 26 年からは約 3 倍になっている。
分科会長	尾道の自転車というキラコンテンツがなくても、このくらいじわじわというか着実に増えているということだ。
委員	確かに美観地区も多くなった。2006 年くらいはまだ歩けるような状態だったが、今、土日は歩けないほど多い。
委員	二次交通の問題がすごく大きいと思う。我が家は車を持たないので児島や茶屋町などに行くのが非常に不便。 瀬戸内国際芸術祭等をしていても、茶屋町や倉敷、児島等に来る方法が全く分からないのではないか。もう少し行きやすかったら、観光客も行こうかなと思うのではないか。 私は外国旅行へ行くときには英語版の倉敷市のパンフレットを必ず持っていき、ここから来たと説明するが、知られていない。国内では、どこに行っても、倉敷と言うとわかってもらえるが、外国では倉敷も岡山もどこなのか全く知られていない。知名度のある広島で、アクセスも、在来線でも尾道をめぐっても来られるなどよいはずだ。でも、倉敷は知られてないし、二次交通が発達してないために旅行者のハードルが高くなっている気がする。
委員	先日、台湾からの飛行機内で、瀬戸内国際芸術祭のパンフレットを見て、友達とルートの話をしている人がいた。香川からのほうが近いだろうということだ。
分科会長	下津井電鉄も児島から倉敷まで走らせるという話もあったが、結局は実現しなかった。電車で児島からまっすぐ倉敷へ行けるとまた違ったかもしれないが。
委員	そうした話で、瀬戸大橋のライトアップをして夜の観光客が来ても、児島に着いたら店が開いてないということもある。アクセスをどうするか。水島臨海鉄道を延ばすのもコストがかかるのでなかなか難しい。県外に観光の勉強で行くと、カーシェアリングとレンタカーを使う

	<p>人がとても多いという。ナビがあると今はどこでも行けて、多言語対応しているので。北海道などはレンタカーの「わ」ナンバーがとても多い。</p> <p>中国や台湾の方はレンタカーで自分たちが行きたい所に行く。家族で、行きたい道の駅へ行くこともできる。児島に行って玉島へ行くなれば、レンタカーか、カーシェアリングといった選択になるわけだ。</p>
分科会長	<p>突破口はそこでは。観光スタイルが団体行動でなくなっていくわけなので。</p>
委員	<p>今は、旅のしかたが、自分たちが行きたいスポットにまっすぐ行く、車で自由に行く、そうになっているのだと思う。</p>
委員	<p>私は美観地区周辺のことしか言えないが、今言われた交通のこと、どういう方法で行ったらいいかという問題もある。美観地区にレンタカーで入ってきて、道が人で溢れているのにそこを車で通る、あるいはすれ違えないところを両側から入ってくるのか。土日などは車を通さないほうがいいなども含めて、住民の人たちが毎日目の当たりにして、思っていることはたくさんある。</p> <p>例えば、外国の方を誘致して倉敷にと言うのは良いが、受け入れの態勢は、ホテルなど泊まる場所を作れば良いだけではない。</p> <p>今は、個人の旅になっているので、サイト等で下調べして倉敷ではここへ行こうと訪ねてこられる方が多い。昔のように観光会社や代理店でコースを作ってもらっているのではない。情報発信をして、そういう個人観光客の受け入れをしているところにはお客さまは来るが、本当に倉敷産の1本の綿花からというようなストーリーを感じさせるようなお店がない。</p> <p>どこの観光地でもあるお店、箱根や京都と同じお店が美観地区にも多くあって、結構繁盛しているのはいいが、観光客からもらったお金は本部やチェーン店等にいつていると思うと、倉敷市が潤っている気がしない。そうしたことも含めて少し課題が多いようには思う。</p>
委員	<p>結構、雑多になってしまっている。</p>
委員	<p>ジーンズのお店がたくさんあるのは、倉敷を象徴するものなので、いいと思う。</p>
委員	<p>全国展開している系列店など、どこにでもあるようなお店もだいぶ増えた。家賃が高くなったのか。</p>
委員	<p>家賃は高いようで、だから、なおさら地元の人たちで入れない。</p>
分科会長	<p>そうした面も出たのですね。では次に、文化について。</p>
委員	<p>玉島地域としては、日本遺産では綿、それから北前船の両方に関わりがある。北前船が寄港することでもとても繁栄して、ちょうど明治元年には岡山県内では岡山に次ぐ第2の都市と言われたのが玉島だ。しかしその華やかな時代は過去のこと、今の玉島地域は、人口流出による街の老齢化が進んでいる。日本遺産の維持など課題がたくさんある中で、人口減少や老齢化、交通手段の問題もある。</p> <p>日本遺産が3つ認定されても、玉島港の中心で、昔からの大庄屋、</p>

いわゆる北前船で栄えた家は1軒しか残っていない。なまこ壁と炭焼きの黒板や瓦の維持も大変な労力で、家を維持することができない。それから、日本遺産に認定された玉島のまちをどうやって維持していけばいいかという問題がある。町おこしや町並み保存と言われるが、正直、維持が難しい。若い人はどんどん出て行ってしまう。大学があるので来る人もいるが、結局、故郷に帰ってしまう。大学生アンケートの17ページの「倉敷に住み続けたいと思いますか」という問で、「住まないつもり」が40%程度とあり、参考資料「現状・課題分析」の10ページでは、日本の空き家数が20年間で1.5倍に増加とある。まさにこれが玉島地域で、どうすれば元気で住みたいまちになるかというのが、まさに課題だ。

文化的な活動として、15年くらい前、市が日本でも珍しい市民創作舞台育成事業を起ち上げた。1年に1回、市内の各地域で順送り開催され、地域だけでなく、地域を越えて人と人との絆と、心のつながりが強くなった。文化事業の結果、そこから遺産として人と人の絆ができて、文化だけではなく災害に対する応援支援なども増えてきている。人の交流、人の移動、それから人が人を支えるということはつながりつつある。

しかし、先ほど話があったが、交通手段が問題。今年、良寛様が玉島にいられて240年で、全国規模の事業を開催するのに、東京や新潟などから来て、新倉敷駅で新幹線を降りても、玉島地域に交通手段もホテルもない。良寛荘だけは市のおかげで少しリニューアルしたが、良寛荘に来てくれても、アイビー、美観地区への交通手段がない。

隣の早島町は県内で一番小さく、12,000人しかいない町だが、倉敷市に合併しなかった理由は、人口密度が高く、コミュニティバスがあるためだ。老人も早島町外から来られた方も無料で乗ることができ、地域をずっと巡回している。また、ゆるびの舎やホール、文化ゾーンが近い場所にいろいろと整備されている。

倉敷市48万都市には移動手段がなく、市外から来られても受け入れ体制が整っていない。2020年はオリンピックで、中央だけでなく地方からも文化を発信していこうと謳っている。私たちも東京のパラリンピックに応援に行くし、向こうからも来られるらしいが、どのように受け入れたらいいのか。ホームステイもあるが、全てマイカーで送り迎えする必要があり、大変な課題を抱えている。ぜひ、早島のような巡回バスを地域に作っていただけないものか。

分科会長 | そういふ段階に来ているのかも。玉野市にはシーバスという同じようなバスがあると思う。倉敷は、まだ必要ないだろうと思っているうちに、そのようになってしまったのだと思う。

委員 | 倉敷市内でこのような地域コミュニティバス等はあるか。

市 | 真備町にある。(コミュニティタクシー)

委員 | 船穂にも走っている。

委員	岡山市には、自転車の「ももちやり」もある。どこから乗ってもどこで乗り捨ててもよい。文化ゾーンに移動することもできる。 玉島地域のソフト面に関しては、文化から応援したいと思っている。子どもたちに、玉島のよさや、こんな歴史、文化、いいものがあるということを伝えていく。そして、子どもたち自身が、玉島の歴史や文化を伝えて来られた方の案内ができるように、郷土に対する愛情を育てたいという活動もしている。
分科会長	来月、大学連携講座で、玉島の新町通りを30人くらいの受講生と歩く。去年も同じ講座をしたが、去年あった建物が今年はなくなって残念。玉島は、港町の風情が残っていない。埋め立てて海がなく、港がどこにあったかもわからないので、想像力をたくましくしないと、港町や北前船寄港は想像できない。下津井も同じような状況で、港町や寄港地として今後アピールしていくには、そうしたハード面や、理解を助けるようなものを整備しないといけない。
委員	街の再開発をしてほしい。また、新しく玉島市民交流センターとして体育館やホールができ、もともとの文化センターと一つのエリアにまとまっている。あわせて2,000人以上、来場者を含めると5,000人規模にもなるが、アクセスする道路整備は行われず、センターラインのない道路しかなく、危険だ。
分科会長	いろいろ意見交換できてよい。次に農林水産についてはどうか。
委員	農林水産で「現状と課題」28ページに書かれていることはそのとおり。岡山では1人あたり耕作面積1ヘクタール未満が8割を占め、それが当たり前とっていた。しかし、県外では1ヘクタールを越える農家も多く、岡山県が非常に少ないというのが現実。 農業振興を考えると、岡山県ではやはり施設園芸だ。お米の耕作者は多いが、今後は、マスカットやブドウ、スイートピー、野菜など、やはり施設園芸を中心にと考えている。施設園芸では新規就業者も、15年くらい前からかなり入ってきている。新しい方も土地がないとできない。市と県も受け入れのため、いろいろなところで情報発信しながら、岡山の施設園芸の良さをアピールしていて、希望を持って来られるのが、提供できるいい環境の土地が少なくなってきたというのが現実。農業の資料に施設園芸がないというのは少し寂しい。
分科会長	戦後、昭和20年代には全国的にも誇るぐらい盛んだったのでは。
委員	倉敷は合併で船穂町と一緒にいるが、船穂のマスカットは有名だが、瀬戸大橋が開通した頃には、売り上げがマスカットだけで9億円くらいあった。
委員	この前、圃場整備をして耕作者を募集している。あと60何区画が残っているの、金時にんじんやいちごなど、耕作品種を増やして2次募集をする予定。
委員	新しい農地ということで非常に関心が高い。いろいろ話は聞いたが、やはり条件的に土の感じが埋め立てと少し違うので二の足踏まれた方はいるみたいだ。

分科会長	漁業について何かないか。
委員	漁業についても、高齢化で担い手が減り、仕方なく家業をやめなくてはいけなくなっている。そのため、玉島の街に魚市場、魚屋さんがなくなっている。 農業も、次の担い手の世代がないのは同じだが、災害も多い。自分の持ち畑が災害に遭ったり、海から塩水が上がったりするともう農業ができない。災害にあったから農業ができず、食べていけないではなく、市が空き地などの情報を横でつないで支えつつ、支えられつつ、のようなことができたらいいと思う。
分科会長	以前、市の鳥はカワセミ、花が藤、木がくすのきだが、漁協の方から市の魚を決めたいという話があったが決められないまま。倉敷市の魚は何があるだろう。
委員	フナは県外から結構釣りに来られる。県外の人からみると岡山県はフナという話は聞いたことある。
分科会長	サワラも有力候補だが、日生のほうが売っている。
委員	ママカリはどうか。
委員	柳井原へ池があるので、ふなめしを毎年やっている。
委員	白魚は玉島の港に上がってくるし、アミは、関東に持っていくと喜ばれる。
分科会長	広く水産物だといろいろと出てくる。シジミもカニも。その時、タコという話もあったが、いわゆる魚の形の魚がいいという人がいて、タコではいけないと。
委員	倉敷に来られた方に、倉敷では何を食べたらいいかとこの前も聞かれたが、答えられない。ママカリも今は取れないし、取れても、日本の中央に出荷されてしまい、地元にはあまり来ないようなので答えられずに終わってしまった。
委員	山口県はフグなどあるが、岡山や倉敷にもそういう魚があればいい。
委員	確かに児島に来た人にも、せっかく来て食べるものがないと言われる。全くないわけではないのだが。
委員	決まれば漁港の応援にもなる。
分科会長	もう時間だが、話がかなり盛り上がり、皆さんがまだ聞きたいことがあれば、事務局にメールで送るということでお願いしたい。本日は半分も発言できなかったと思うので。

#### 4. その他

次回の日程について

#### 5. 閉会